

若き津波防災大使（日中植林・植樹国際連帯事業）

参加者の感想（抜粋）

（※「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮は、以下「サミット」と記載）

○中国（福建省）

初めに今回のサミットの主催者や、学校がこのような貴重なチャンスを与えてくれたことに感謝する。私達は魅力溢れる黒潮町の風情を味わい、世界各地から来た友人達と知り合い、貴重な友情を手に入れることができた。同時に、津波防災に関する知識を増やすこともできたし、日本人の環境意識にも心底感服した。今回のサミットの様々な場面に表れていた精神こそが、その意識の源だと思う。サミットの前までは、出身地の関係で津波のことをほとんど知らなかった。宮城県と高知県を訪問し、多賀城高校の学生の話聞いて、初めて“津波”というものに対してはっきりした印象を持った。今はまだ幸い何事も無く平穏無事な自分の住む街が津波に襲われた時のことを考えて恐ろしくなった。そしてある種の責任感が湧いてきた。行動を通じて何かを変えたいという強い思いが頭の中から消えなかった。こうした、災いが大きくなる前に防ぐという精神や、自分の故郷を守りたいという思いは、たとえ国が違っても皆同じだと思う。そんな気持ちを抱いて私達は分科会を迎えた。会では各国の友人達と見解を共有した。特にインドの竹製緊急装置が深く印象に残った。チリや岩手の学生たちも活発に意見を述べていた。とても良い勉強になった。黒潮町では、分科会後のフィールドワークも忘れられない。一步一步、峰を越え山に登った。沿道には美しい田園風景が広がっていた。緑の香しさを感じながら山の上に立ち、現地の小学生達と一緒に大自然に向かって思い切り叫んだ。あの叫びは、故郷を守るという決意の表明であり、愛する自然への畏敬の念だった。

○中国（福建省）

日本人は老若男女を問わず、防災意識がとても高い。26日のフィールドワークでは、日本の小学生が私達に身を守る方法と避難の手本を見せてくれた。得るところが多かった。2011年の東日本大震災の後、日本人は安全教育を更に重視するようになった。中国も安全教育を強化し、必要な場所で実施し、国民全体の防災意識を高めるべきだと思う。

○中国（福建省）

今回のサミットに参加できてとても光栄に思う。今回の日本の旅で最も印象深かったのは、高知県の人々の素朴さと温かさだ。到着時の熱烈な歓迎にも、離れる時の見送りにも、日本国民の友情と誠意を感じた。

高知と宮城は共に地震や津波が頻発する多難地域だ。しかし現地の高校生との交流の中で感じたのは、彼らの故郷に対する深い愛情と大自然に対する感謝の念だった。残酷な自然災害に直面した時、彼らは逃げることも恨むこともしない。ある種の積極的な心持ちで向き合い、大自然と共存する方法をあれこれ考える。帰国したら皆に話したい。先進技術や設備も確かに重要だが、もっと大切なのは私達が防災意識を重視し、故郷を愛し、大自然に感謝することだと。

中国には「人間の力は自然に打ち勝つ」という言葉があるが、人類は大自然が私達に与えてくれている全てにもっと感謝し、自然と共存していくべきだと思う。

○中国（海南省）

今回一番感動したのは11月27日のあの冷たい雨の降りしきる早朝のことだ。高知県を離れる私達を、大勢の黒潮町の人々が沿道に立って見送ってくれたのだ。皆とても感動した。日本人の礼儀正しさがよく表れた出来事だった。

今回の交流を通じて、私達は日本の整った防災システムについて見聞を深め、防災訓練にも身を持って参加した。更に重要なのは世界中の高校生と交流したことだ。私にとって貴重な財産になった。今後も自身の防災意識と能力を高め、外部に向けて防災知識を発信する努力を続けるつもりだ。今回の活動を十分に生かすために！

○中国（海南省）

- ① 日本人は環境保護意識や、自然災害に備える意識が非常に高い。道路は清潔でごみの分別も完璧だ。各地域には皆その場所に応じた避難ルートが設けられている。帰国したら、できるだけ自分を変える努力をする。そしてクラスメイトや友人にも伝えたい。
- ② 日本人はとても真面目に注意深く事に当たる。その細やかな心配りは全て相手を念頭に置いたもので、しばしば相手にサプライズ的な感動と喜びをもたらす。それに日本人はとても友好的だ。だからこそ仕事の効率が非常に高いのだ。帰国してからも、日本人のこうした優れた点を学びたい。
- ③ 私達の自然災害に対する理解はまだ十分ではない。だから帰国したらクラスメイト達にもしっかり広めたい。日本を例に挙げ、私達はまず自分の身を守る術をマスターし、次にできる限り学んで救援者になり、自然災害による被害を減らすために最大限の努力をすべきだと伝えたい。

○韓国

自然災害に対する日本の取り組みを学ぶことができ印象的だった。最善を尽くす日本の姿勢は、他国も学ぶべきだと思う。避難訓練は、本番さながらの雰囲気で行われ、子ども達も嫌がらずに参加しており、素晴らしいと思った。また、世界各地から参加した高校生同士でアイデアを出し合う中で、自らの考える力が鍛えられるのを感じた。

○インド

世界中から集まった高校生と知り合い、意見を出し合えたことは、とても興味深く、新鮮だった。サミットを通じて津波に対する意識が高まり、自分だけでなく他人を守るための方法や技術を身につけた。母国に帰ってから、多くの学んだことを実践していきたい。一人の命を救う大切さについても考えさせられた。私達がサミットで紹介した災害時の救命キットのアイデアを、参加各国より評価してもらえたことも良かった。

○スリランカ

自然災害と隣り合わせの国から来た私達は、災害の恐ろしさを知っている。私はこのサミットを通じて、日本が防災のためにどんな対策をしているかを知ることができた。私の国ではこのようなワークショップの開催は限られているが、参加者の高校生として見たこと、すべきことを母国で伝えていこうと思う。日本は防災に対して、実践的な活動をしていると感じた。私の一番の思い出は、高校生の皆さんと参加したグループワークだ。それぞれが直面する問題の解決に向けて、どんな行動を取っているかを直に学ぶことができたからだ。モルディブ出身の高校生は、「開発途上国では、災害前にすべての対策を施すことは難しく、政府の援助にも限界があるので、グローバルなネットワークを築くことが必要」と発言していた。また、砂質土壌ではバネを活用した免震構造が難しいことも知った。一方、森林再生やマングローブや珊瑚を守ることで、自然災害の危険性を軽減できること等、理解が深まった。自然を大切にしなければ報いを受ける。だからこそ、私達は自然を守らなければならない。私達の祖先が、どのように自然と共生してきたかを学ぶべきだと思う。

○モルディブ

東日本大震災の傷痕が残る被災地を訪れたことが、最も強く印象に残った。これまで自国で見てきた写真や映像による印象とは違う衝撃を感じた。私達は来日後、自分の目で破壊の惨状を目の当

たりにした。津波の被災者の話を聞き、大切なものを失って、長い間どんなに辛い思いをされたかを考えると、涙が止まらなかった。最愛の人や我が家を失ったのにもかかわらず、彼らは毎日懸命に生活を取り戻そうとしていて、体験を語り継いで生きているのだ。日本では、黒潮町で開催されたサミットに参加することができ、自然災害がもたらす甚大な被害に気付いた。

今後起こり得る災害のリスクを減らすために、協力して行動すべき時がきた。出来る限りの手を尽くして、将来の世代の安全を守らなければならない。そのためには、今生きている私達が、崇高な目的のために立ち上がることが求められる。「若き津波防災大使」の一員として、「黒潮宣言」の誓いを胸に刻み、自国の市民はもとより、世界中の人々の意識を高めるために最善の努力をしたい。明るい希望を持てる、安心できる明日に向けて、私達が一步ずつ進むことができるように。素晴らしい経験をさせていただき、感謝している。

○インドネシア

私は日本の人々が大好きだ。会って間もない私達に、とても親切に接してくれた。日本に家族ができたようだ。皆がフレンドリーで、お互いを気遣っている。新しい出会い、初めて口にする美味しい日本の食事、日本の冬の寒さなど、多くの経験をした。いつかまた日本に戻って来られることを願っている。日本は私の大好きな場所の一つだ。時間があつという間に過ぎてしまった。日本の歓迎を本当に感謝している。私が学んだことを自分自身の体験として、インドネシアの友達にも伝えたい。ありがとう日本！ Terima Kasih (テリマカシ)！（※現地語でありがとう）

○インドネシア

今回のプログラムでは、大切なことを数多く学んだ。それらの体験を広く伝えていくためにも、まずは周りの友達からコミュニティを作っていきたい。災害が起きた時に多くの人が支え合えるような仕組みを作りたいと思う。植林も検討したい。そして、アチェの人々が災害の危険に真剣に向き合うための手助けになるような活動をしていきたい。

○カンボジア

今回のプログラムを通じて、自然災害に備えるための対策を学び、多くを経験した。母国の仲間達に伝えていきたいと思う。様々な国から集まった高校生同士で、体験を共有しながらコミュニケーションを図ったことが、特に印象的だ。高校生一人一人が最善を尽しているのが感じとられ、私だけでなく参加者一同にとって有意義だったと思う。精一杯、意思疎通を図るなかで、自然と嬉しさやパワーが湧き上がった。友情が徐々に芽生え、国同士の繋がりも強固になっていくことは重要である。お互い友好的になれば、誰も壊すことはできない。また、美しい国土や、親切で気さくな人々に出会ったことを大変嬉しく思う。本プログラムは役に立つ内容だった。素晴らしい日本の方々、そして各国の参加者に会う機会を与えてくれた日本政府に感謝したい。スタッフの皆さんも一生懸命に支えてくれ、心から賞賛している。日本の皆さんが健康で安全な生活を送るために、自然災害の脅威がなくなり、再び惨事に見舞われることのないよう願っている。

この7日間のプログラムに参加できたことは、私にとって大変貴重で、有意義な経験だった。参加したすべての国の皆さんも同感するのではないだろうか。ありがとうございました。

○シンガポール

今回の旅は、間違いなく思い出に残る、新鮮な体験だった。日本の皆さんが自然災害に関して一致団結している様子が最も印象的だった。日本における津波のヒーローである濱口梧陵の話は感動的で、勇気もらった。津波の意識を高めるべく、日本人が持つ情熱や真剣な姿が思い浮かぶ。緊急避難訓練の時には結束の様子を肌で感じた。訓練であるにもかかわらず、一人一人が真面目に捉えていた。これらの津波防災啓発の取り組みは、今後、世界でもっと知られるようになると確信している。私も帰国してから、津波への意識を高められるような行動を広め、訓練の際に学んだことを実践して、いつ起こるか分からない災害に常に備えたい。様々なことに触れて体験できたことは、

私にとって大変貴重だった。

○タイ

様々な活動に感銘を受けた。母校に戻ったら環境保護に取り組むクラブを作り、災害についての意識を高めて、学習・情報発信の場としていきたい。日本の人々はとても親切で、正直で、注意深いと心から言いたい。そんな日本や日本人が私は大好きだ。今回のサミットでは良い経験をさせてもらった。機会があれば日本を再び訪れたい。

○フィリピン

地震や津波の被災者の話は、災害がもたらす新たな側面に気付かせてくれた。希望を失いかけても、世界中の高校生を勇気づける彼らが辿った道のりを思うと感動する。彼らの強さや、彼らが教えてくれたことを携えて母国に戻りたい。

○ブルネイ

日本の人々は、老若男女を問わず、どんな場所においても、大変礼儀正しく、見知らぬ人であっても挨拶をしてくれる。他に私の印象に残っているのは、和歌山県立耐久高等学校で行ったフィールドワークだ。先生や高校生の皆さんが、災害前、災害発生時、発生後にどんな対策をすべきかを教えてくれた。例えば建物内で火事が起きたらどうすればよいのか、災害発生時の携帯用トイレの設置方法等についても学んだ。また、火事が起きた際、どんな状況に陥るのかを経験した。サミット当日は、津波に対処するための必要な知識として、例えば、避難タワーや丘などの高台に逃げる大切さを確認した。一方で、自然災害に対する意識を高めて、災害へ備える方法についても学ぶことができた。

○ベトナム

今回参加したサミットでは、自然災害のリスクについて理解が深まり、災害に備える方法も学ぶことができた。特に実践的な避難訓練は素晴らしいと思った。母校でも避難訓練を実施するよう提案したい。

○マレーシア

私は今回の滞在で、日本文化に感銘を受けた。日本の方々はお互い気を配り、相手に不快な思いをさせるようなことは決してない。また相手のことを可能な限り察して行動しているようにも見受けられた。私は、何かに取り組む時の日本人の心構えが大好きだ。難しい課題であっても一生懸命に解決しようとする姿勢だ。例えば、黒潮町におけるサミットでは、私達は他国の参加者に、自然災害により生まれる問題について質問した。すると、神戸大学附属中等教育学校の皆さんは、ためらうことなく、真剣な面持ちでコミュニケーションを図り、私達の質問に答えてくれた。

私は日本での経験を、国の友達、先生、家族に話したい。また彼らが日本に来て、私と同様の体験をするよう勧めたい。「あいしているにほん、にほんはきれいです（※原文手書き）」ありがとう日本。またいつか戻ってきたい。

○ミャンマー

サミットを開催してくれた日本の関係者の皆さんに感謝したい。訪問を通じて、日本の多くの遺産や歴史的名所を知ることができた。また、日本がこれまで取り組んできた防災対策について学ぶことができた。私の国の文化や言葉を、他の国の皆さんと共有できたことも、嬉しかった。今回のサミットでは、津波の対策、避難訓練の実施、地震による被害など、多くのことを学んだ。これらの情報は、将来、あらゆる自然災害に見舞われるかもしれない私達の次世代にとって、役立つものである。大きな被害が起こる前に、余裕をもって準備を進めるためにも、私が学んだことを、家族、友達、親戚、そして私の国の人達に伝えていこうと思う。

○ラオス

帰国後、このサミットを通じて得た知識や学んだことのすべてを広めていきたいと思う。日本に愛着が湧いた。私の友達にも日本に旅行するように勧めたい。伝統ある観光名所など、訪れる場所がたくさんある。スタッフの皆さんや日本の方々が、温かく迎えてくれたことが印象的だった。

○サモア

到着初日から、日本の人々は私達を快く笑顔で受け入れてくれ、大変貴重な経験をすることができた。私達にいつも敬意を持って接してくれ、とても嬉しかった。

今回のサミットでは多くのことを学んだ。参加できたことを光栄に思う。今後起こり得る自然災害に対して、自分自身どのように備えたらよいかという大事なことを教わった。また他国の事情を知り、いつやってくるか分からない災害に備えるスキルを身に付けられたことは、サミット参加の大きな成果だ。今回のサミットを開催した日本に、心よりお礼を申し上げたい。

○トンガ

防災意識を向上させる重要性に気付いたこと、自然の猛威を軽減させて、復興を遂げる方法についても熟考できたことが、今回の旅の大きな成果だ。私達高校生は、世の中に変化をもたらし、人命を救うために何ができるかを考えた。本質的には、より良い将来を作ることだと思う。多くの国から参加者が集い、様々な相違があった。しかし、それらを乗り越え、皆が手を携えて今回のサミットを成功裏に終えることができ、感動した。チームワークの精神を養い、愛に満ちた結束の心を育むことができた。

サミットに限らず、日本の人々や周囲の環境にも感激した。素晴らしい国民の皆さんが暮らしていて、愛情と敬意で溢れていると感じた。私達は文化や肌の色など、様々な面で異なるが、それにもかかわらず、日本の人々は、ありのままの私達を大事にしてくれ、「皆、同じ人間」というような笑顔で接してくれた。

○パプアニューギニア

滞在期間中、様々な楽しい企画や学習の機会があり、多くのことを学んだ。これまで想像していなかったような場所を訪ねることもできた。自然災害のリスクを知り、防災意識を向上できたことが最大の成果だ。私の国では、ハザードマップ、セーフティゾーン、避難訓練の整備など、減災のために緊急を要する対策が十分ではない。プログラムを通じて、私の国パプアニューギニアでは、防災の観点から向上の余地があると気付いた。母国の防災対策を改善するための必要な知識を得ることができたので、ごく普通の高校生の私でも、国を変えられると思えるようになった。

帰国後、私には学んだことを実践する決意と意欲がある。高校生の私に自信を与えてくれた日本政府、そして本プログラムの主催者の皆さんに、心からお礼を申し上げたい。おもてなしにも感謝したい。将来、また日本に戻って来られることを楽しみにしている。

○パラオ

私は日本で起きた5年前の津波が、いかに悲劇的な出来事であったかを知り、衝撃を受けた。私達は、津波の被災地を何カ所か訪れ、被災者である高校生の証言に耳を傾けた。津波発生時に、どのように周りとは協力して行動したか等を詳しく尋ねる機会を得た。その時、グループの司会をしたことは貴重な体験だった。様々な人種で構成されるグループをまとめることを学んだ。このような特別な経験は一生の思い出であり、決して忘れることはない。

○フィジー

プログラムが時間通りに常に進行したことが印象深かった。日本人は世界中で特異だ。(彼らの優しさ、おもてなし等は、言葉では表現できない。)自然災害は、いつ、どこで起きてもおかしく

ないので、世界中で防災対策をすべきだと感じた。各国政府は具体的なプランを作成すべきだ。

○マーシャル

今まで見たことのないような素晴らしい景観や名所を訪れて、参加高校生の皆さんからは多くのことを学んだ。避難場所について話し合ったことや、自らの文化を大切にしている点が特に印象に残った。醤油づくりの発祥地も訪ねることができた。スタッフやコーディネーターとして私達を案内してくれた皆さんに感謝している。この旅を通じて学んだことを、故郷に戻ってから広めていきたい。多くの出会いを通じて友達ができたこと、色々なことを学べたことに、感謝の気持ちで一杯だ。

○ミクロネシア

悲劇的な出来事から復興を目指す、日本人の力強さや気力に感銘を受けた。地域社会が結束して立ち上がる様子に驚いた。国や人々がこんなにまで一致団結して取り組む姿は見たことがない。安全で健康な社会を作るために、日本が実践する考えや方策は素晴らしいと思う。それぞれの地域でワークショップや意見交換会を開催して人々を巻き込み、学ぶ機会を提供し、自然災害に備えている。各週、各月など定期的な避難訓練も実施されていた。これらのアイデアを母国に持ち帰り、日々の生活の中に取り入れていきたいと思う。

○アメリカ

津波やその他の災害に備え、日本がインフラや制度面でしっかりと対策を講じていることに感銘を受けた。また被災者の方々から、被災前や被災後の体験談を聞いて色々勉強になった。私と同じように、より多くの人達にも知ってもらいたい。日本や他の国の人達が、防災に対して寛大で、熱意を持って取り組んでいる姿勢は、特に印象深かった。

○チリ

津波や地震などの自然災害が起きた時、どのように行動をすべきかが分かり、災害に備える大切さにも気付いた。また、災害発生時に団結して、素早く、効果的なプランを作成することの大切さ、また私達一人一人がテキパキと熟練した方法で他者を助けられることを学んだ。

将来、災害関連で外国や地元以外に赴くことになるかもしれない。そんな場面では、初対面の人ともコミュニケーションを図り、助け合う必要があるので、英語を話す重要性も感じた。私は、同世代の他国の高校生が語った地震・津波の被災体験や、協力して作成した行動計画が心に残った。一つの目的に向かって、様々な文化、宗教、信条を持つ人々が団結して支え合うことは、力強く、素晴らしいと思った。

○チリ

日本訪問は大変素晴らしい体験だった。私達皆が抱える宿命的な事柄である津波について、また今回の旅の目的に絡む様々なことを考えさせられた。東日本大震災による津波の生存者である高校生の話に胸が痛んだ。自分も同じような惨事に遭えば、大切な人を失っていたかもしれないと思うからだ。今欠けているのは、安全・防災対策に取り組む意欲ではないだろうか。それさえあれば、今後大切な人を失ったり、自らの命を落とすことがなくなると思う。

○ペルー

正直言って、私の人生の中で最高の経験だった。意見交換や文化・言語の交流を通じて、様々な文化に触れることができた。また、世界が直面する多くの問題への解決策を見出せたことが何よりの成果だ。防災、災害対応、復興のどれをとっても、人々の意識の持ち方が重要なことが分かった。人々が無関心のままでいたら、現状は変わらないからだ。帰国後、そのことを伝えていきたい。多くの支援を必要としていながら、政府からの恩恵を十分に受けられない人々を中心に、皆の意識を

高めていきたい。日本での様々な学び（訪れた場所、学校、文化、高校生によるワークショップ等）を受けて、私は将来のリーダーとしての責務を果たすことを約束したい。

最後に、日本の人々や会議主催者の皆さんが、私達に歩み寄ってくれたことに感謝したい。リーダーシップの模範を示してくれたと心から思う。また日本の高校生の皆さんからは、自国に戻ってからも応用できる多くの技術を教えてもらい、大変嬉しく思う。お土産や写真だけでなく、日本で深めた防災・減災に関する知識は、私の脳裏に刻まれるだろう。私の言動を通じて、より多くの人を感化していくことができれば幸いだ。まだ旅の終わりではないが、私達の果たすべき責務は今、始まったばかりだ。

○トルコ

日本滞在中、日本の文化について数多く触れる機会があった。私を一番魅了したのは、日本人が誰に対しても示す優しさと思いやりだ。また、自然災害に備えて、周到に準備された避難訓練を体験できたこと、そして今回のプログラムに参加できたことは、大変有意義だった。

○ポルトガル

今回の旅では、日本の真の姿を知ることができた。思いやりに溢れて、賢く、語り継ぐ経験をたくさん持つ日本の人々、そして、整然と計画的に整備された町並みが思い浮かぶ。旅を進める中で、経験豊富な各国参加者の皆さんとも出会うことができた。そんな仲間と提案した行動計画を、母国に戻って広めていきたい。行動計画には、私達だけでは思いつかなかった多様な視点が盛り込まれ、革新的で新しいアイデアが詰まっている。このことは、今回の旅とサミットの最も重要な成果であると感じている。具体的には、宮城県志津川高等学校で見せてもらった映像について、母国で伝えていきたい。私自身、その映像を見て、津波の実態に驚かされた。防災対策として整備されたインフラ（避難タワー、川の両岸に建設されたダムなど）、そして、サミット自体の生産性の高さについても話そうと思う。私達を歓迎するために駆けつけてくれた方々に、お礼を伝えてほしい。皆さん一人一人に快く受け入れていただき、感謝している。

○ギリシャ

日本で皆さんに温かく歓迎してもらい、彼らの社会の一員として受け入れてもらえたことに、驚きと嬉しさを感じた。またサミットを通じて得た自然災害や防災に関する情報は、大変有益だった。私はそれらの知識を活用して、自宅の備えをすることはもちろん、自然災害について自国の人々に伝えてきたい。

○ケニア

日本人は自然災害のリスクを減らすため、揺るがない決意を持っており、その使命を遂行するために、あらゆる手段を使う体制が整っている。世界から集まった私達高校生もまた、より暮らしやすい社会を作るために、自然災害の危険性と、災害を適切な方法で防ぐ大切さを広める心構えができた。高校生の私達が得た知識を、各々の国に戻って効果的に実践することで、災害の脅威を大幅に減らせると感じている。今回得た知識は、世代を超えて継承されていき、やがて干ばつ、洪水、津波、地震、飢餓、落雷といった災害を予防する、より良い方法を生み出していくことになるだろう。日本の優れた科学技術は、私達「若き津波防災大使」に多くのことを伝授してくれた。これまでも日本の技術により多くの挑戦がなされてきたが、世界はますます、創造的、革新的なものになっていくと感じている。今後、世界は変わるだろう。より良い世界を希求する私達が、正確な知識を得ることができ、それらを実践していくからだ。ありがとうございました。